

原子力事業の新たな展開

Continuously Growing Nuclear Business

巻頭言

原子力産業のグローバル化に向けて — 日本の役割

Expectations for Globalization of Japanese Nuclear Industry

発展途上国の人口増加やBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）を中心とした新興国の経済発展によって、世界の一次エネルギー需要は今後大幅な増加が見込まれています。これに対応する供給側は、石炭を中心とした化石エネルギーに依存する状況が続く見通しです。このまま推移すれば、将来的に気候変動の問題は取返しのつかない状況に至ると予測されることから、各国が協調して低炭素社会への転換を図り、温室効果ガスの排出量を大幅に削減することが求められています。

排出量をもっとも多いのは発電部門です。削減効果が大きいのは、需要側を技術革新により効率化し省エネを進めることですが、同時に、供給側をゼロエミッション電源へ切り替える必要があります。すなわち、水力発電を含めた再生可能エネルギーと原子力発電の割合を増やし、化石エネルギーによる発電の割合を減らすことです。

近年、エネルギーの安定供給と地球温暖化問題への対応の観点から、原子力発電の価値を再評価し、積極的に導入しようとする国々が増加しており、“原子力ルネッサンス”の到来と言われています。原子力発電は、環境性や、安全性、経済性、安定性といった基幹電源として求められる要件をすべて満たす優れた特性を持っていることから、このような傾向は自然の流れでしょう。

一方で、原子力発電を開発する際には、原子力という技術が持つ潜在的な危険性と核不拡散への配慮といった課題に的確に対応する必要があります。この点について、わが国は開発の当初から、安全を最優先し、平和利用に徹することを基本方針として取り組んでおり、国際社会からもその実績は高く評価されています。

わが国は過去40年以上にわたり一度もとぎれることなく原子力発電所の建設を続けています。たゆみない改良と改善の努力の結果、高品質の機器を供給できる体制を維持し、短い工程で建設プロジェクトを完成させる管理能力、そして安全に発電所を運用管理する能力にもたけています。また、実経験で実証された高い耐震技術は、世界に誇れる分野です。わが国が持つこれらの優れた技術の蓄積に対して海外から期待する声が高く、既にいくつかのプロジェクトに参画する動きがあります。

今こそ、これまで蓄積してきた技術力をベースに積極的に海外展開を図り、その期待に応えていく必要があります。これは原子力先進国としての責務でもあります。その具体化に向けては様々な課題が想定されますが、それらを乗り越えることで、初めて、わが国原子力産業の真のグローバル化が図られると考えています。

服部 拓也
HATTORI Takuya

(社)日本原子力産業協会 理事長 President, Japan Atomic Industrial Forum, Inc.